

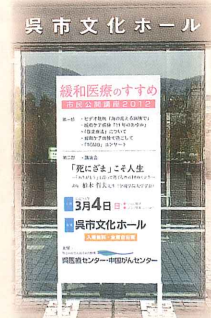


—市民公開講座2012— 緩和医療のすすめ

緩和ケア科科长 砂田 祥司

「緩和医療のすすめ」と題して2012年の市民公開講座を、2012年3月4日、呉市文化ホールで開催しました。緩和医療について、正しい知識を持っていただくことを目的としました。生憎の氷雨模様の天候でしたが、開場の1時間以上前から参加者が待っておられる状況で、開

演時には1600人収容のホールがほぼ満席となっております。会場のロビーでは、がんについてのパネルが設置され、各専門職による相談コーナーが設けられ、好評のようでした。また東日本大震災の発生時に当院から派遣されたDMAT（災害派遣チーム）の活動もパネル展示



されました。

第1部として、ビデオ「海に見える病棟で」を見ていただきました。このビデオは以前当院緩和ケア病棟で収録され、放映された物です。音楽療法を聞きながら、海に見える病棟で過ごされた患者さんご家族の様子が記録されておりました。続いて、緩和ケア科の砂田祥司が「緩和ケア病棟10年の歩み」、音楽療法士の栗野真湖先生が「音楽療法について」の講演を行いました。引き続き、緩和ケア病棟を利用された患者さんご家族お二人に、緩和ケア病棟で過ごされた患者さんご様子やご家族の感想について話していただきました。その後、呉市出身のシンガーソングライターTOMOさんに、ミニコン

サートを行っていただきました。

第2部として、日本における緩和医療の先駆者である金城学院大学学長の柏木哲夫先生に講演していただきました。「死にざまこそ人生」という演題で、ホスピスで2500名余の患者さんを看取られた経験を通して、良き死を死するためには、良き生を生きる必要があると教えていただきました。死という難しい問題にも拘わらず、ユーモアも交えたお話に、聴衆も惹き込まれるように聞いておられました。

本公開講座を通して、一般市民の方に緩和医療についての正しい情報が伝わり、苦痛緩和が行われ、生活の質が向上することを祈念します。



緩和医療のすすめ 市民公開講座 2012

主催：独立行政法人 国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター

